

Q2.どのように活動を進めていますか

A2. 福祉巡回バスは、週3日、1日に2～4往復、施設と団地、商業施設を回ります。主な対象は高齢者や障害者で、乗車位置も柔軟に対応しています。移動に困っている方に情報が届くよう、民生委員・児童委員の集まりや病院で広報しています。

この活動が地域に浸透する中、利用者の希望で、月1回、ホームセンターへ行く買い物バスがスタートしました。また、認知症カフェで「地域の昼食会に参加したいが、遠くて歩いていけない」という声を聞いた民生委員・児童委員から相談が寄せられ、月2回、地域の昼食会に高齢者を送迎することも始めました。介護の資格を持つ職員が運転を担当しており、見守りや介助もできるのが強みです。

Q1.取り組みのきっかけは

A1. 第2シルバーコースト甲子園の周辺は、昭和30年代に団地建設が進められ、現在では高齢者が多い地域です。平成27年7月の開設当初から、施設のオープンカフェスペースや自動車、職員などの資源を地域に役立てたいと考えていました。

そのような中、社会福祉協議会や地域包括支援センターから相談があり、団地内で開催する認知症カフェの相談援助やレクリエーションを近隣の高齢者施設と交代で担い始めました。

また、この地域は駅から少し遠いため、高齢者にとって買い物などが不便なことが分かり、施設の車を活用して団地や商業施設を回る「福祉巡回バス」の運行を開始しました。

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

☆キラリ☆社会福祉法人☆

～社会福祉法人 円勝会～

福祉巡回バスによる移動支援

今回は、特別養護老人ホームの第2シルバーコースト甲子園が実施する「福祉巡回バス」について紹介します。

地域で開催される認知症カフェや施設内のオープンカフェなどを通じて、住民を見守りながらニーズをキャッチし、民生委員・児童委員や地域包括支援センターと連携して住民の移動支援に取り組んでいます。



絵手紙や書道などの教養・娯楽講座を、施設の利用者と住民と一緒に楽しませます

Q3.今後、どのように進めていきたいですか

A3. 施設は地域の一部であり、住民の要望とともに施設の役割も変化します。誰もが集える開かれた施設、頼られる存在になりたいです。

福祉巡回バスの実施や認知症カフェでの相談援助などを通じて、住民や地域の団体とのつながりができました。多くの人と関係ができることで施設に情報が集まる上、施設で生活する利用者も自然に外部との関わりを持つことができます。最近では、施設内の部屋を無料開放して、教養・娯楽講座もスタートし、利用者も住民も一緒に参加しています。

今後も、住民が困った時に当たり前のように頼られる、生活に身近な施設(地域の拠り所)を目指していきます。



バスの中は、いつもコミュニケーションにあふれています

社会福祉法人円勝会
第2シルバーコースト甲子園
西宮市枝川町17-55
TEL:0798-43-0801
URL:<http://enshoukai.com/>

